

勅令第 號

臨時財産調査令

第一條 本令ハ戰時利得ノ排除、國家財政ノ再

建、國民經濟ノ安定等ヲ目的トシテ定ムル新稅ノ創

設及確保ニ資スル爲メ命令ヲ以テ定ムル時期ハ

以下調査時期ト稱ス。一、於ケル個人及法人ノ

財産等ヲ調査スルヲ以テ目的トス。

第二條 調査時期ニ於テ左ニ掲グル財産ヲ有ス

ル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該財産ニ関ス

ル事項ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ。

一、預金、貯金、其他此等ニ準ズル債權ニシ

テ命令ヲ以テ定ムルモノ。

二、公債、社債、株式、其他此等ニ準ズル財

産ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ。

三、手形又ハ小切手ニシテ命令ヲ以テ定ムル

モノ。

四、投資信託ノ受益權ニシテ命令ヲ以テ定ム

ルモノ。

五、前各號ニ掲グルモノノ外命令ヲ以テ定ム

ル財産。

前項ノ場合ニ於テ同項ニ規定スル者ハ其ノ者

ガ法人ナルトキハ當該法人ノ代表者及支配人

其他ノ代理人ガ調査時期ニ於テ本州、北

海道、四國、九州及命令ヲ以テ定ムル其ハ附

屬島嶼ニ住所及居所ヲ有セザルトキハ命令ノ

定ムル所ニ依リ同項ニ規定スル者又ハ當該財

産ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ。

八、當該財

産ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ。

九、當該財

産ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ。

十、當該財

産ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ。

十一、當該財

産ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ。

十二、當該財

産ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ。

十三、當該財

産ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ。

十四、當該財

産ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ。

十五、當該財

第三條 第一項ノ申告ヲ爲スル所ニ依リ本人ニ代  
 保管スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本人ニ代  
 リテ第一項ノ申告ヲ爲スコトヲ得  
 第三條 調査時期ニ於テ現存スル左掲グル  
 契約ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノノ契約者又  
 ハ郵便年金受取人ハ命令ノ所ニ依リ當  
 該契約ニ関スル事項ヲ所轄稅務署ニ申告スベ  
 シ  
 一 生命保險契約  
 二 金錢信託契約  
 三 投資信託契約  
 四 有價證券信託契約  
 五 除ク又

三 無盡契約  
 四 郵便年金契約  
 前條第二項及第三項ノ規定ノ前項ノ場合ニ付  
 之ヲ準用ス  
 第四條 日本銀行券預入金等ニ係第一項ノ規定  
 依ル預金、貯金又ハ金錢信託ヲ爲サントス  
 者及同條第二項ノ規定ニ依リ支拂ヲ請ボセ  
 ントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該預金  
 貯金、金錢信託又ハ支拂請求ニ關スル事項ヲ  
 所轄稅務署ニ申告スベシ  
 第五條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準  
 用ス

原本不明瞭

第五條 法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ調査時期ニ於ケル財産目録、貸借對照表、動産及債権債務ニ関スル明細書其ノ他ノ書類ヲ作成シ之

第六條 命令ヲ以テ定ムル事業ヲ為ス個人ハ命令ノ所轄稅務署ニ提出スベシ

第七條 所轄稅務署ニ申告スベシ  
第八條 命令ノ定ムル所ニ依リ當該有價證券其ノ他當該財産又ハ契約ヲ證スル書面ヲ所轄稅

第八條 稅務署ニ提出スベシ  
第九條 命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノ措置ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規

定ニ依リ提出セラルタル當該有價證券其ノ他  
當該財産又ハ契約ヲ證スル書面ニ政府ノ發行

命令ヲ以テ定ムル方法ニ依リ之ヲ為ス  
第九條 第一條ニ依リ之ヲ為ス

第十條 命令ヲ以テ定ムル方法ニ依リ之ヲ為ス  
第十一條 命令ヲ以テ定ムル方法ニ依リ之ヲ為ス

限若ハ禁止ニ関シ必要ナル定ヲ為スコトヲ得  
前項ニ規定スル財産及同項ニ規定スル契約ニ  
基キ契約者、生命保険金若ハ郵便年金ノ受取  
人又ハ信託ノ受益者ノ有スル権利ハ法律ノ定  
ムル所ニ依リ之ヲ國庫ニ歸屬セシムルモノト  
ス

第十條 第四條、申告ナキ場合ニ於テハ日本銀  
行券預入令ニ規定スル金融機関ハ同令第二條  
ニ規定スル預金、貯金若ハ金錢信託ノ受入又  
ハ日本銀行券ニ依リ支拂ヲ為スコトヲ得ズ  
第十一條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必  
要ナルトキハ第五條ノ規定ニ依リ書類ノ提出

ヲ為スベキ義務アル個人ニ質問ヲ為シ又ハ當該  
為スベキ義務アル個人ニ質問ヲ為シ又ハ當該  
事業ニ関スル帳簿書類、財産其ノ他ノ物件ヲ  
検査スルコトヲ得

第十二條 大藏大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ郵  
便官署、銀行其ノ他命令ヲ以テ定ムル法人ヲ  
シテ第二條乃至第四條、第七條及第八條ニ規  
定スル事項ニ関スル事務ヲ取扱ハシムルコト  
ヲ得

前項ノ規定ニ依リ同項ノ事務ノ取扱ヲ為ス法  
人ノ當該事務ニ従事スル職員ハ之ヲ法令ニ依  
リ公務ニ従事スル職員ト看做ス  
第十三條 行使ノ目的ヲ以テ第八條第二項ニ規

定スル證紙ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役  
 又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス  
 偽造ノ證紙ヲ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以  
 テ偽造ノ證紙ヲ人ニ交付シ、輸入シ若ハ移入  
 シタル者又ハ第八條第二項ニ規定スル證紙ヲ入  
 不正ニ使用シタル者ノ罰亦前項ニ同ジ  
 前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
 第十四條ニ規定スル措置ニ関スル事務  
 二從事スル者同條第二項又ハ第十條第一項  
 ノ規定ニ基キ發スル命令ニ違反シテ當該措置  
 ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五萬圓  
 以下ノ罰金ニ處ス  
 第十五條ノ規定ノ違反アリタル場合ニ

於テハ其ノ行為ヲ爲シタル者ヲ三年以下ノ懲  
 役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第十六條ニ規定スル事項  
 二関スル事務ノ取扱ヲ爲ス官署若ハ法人ノ當  
 該事務ニ從事スル職員又ハ此等ノ職ニ在リタ  
 ル者其ノ事務ニ関シ知得タル秘密ヲ漏泄シ又  
 ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千  
 圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第十七條 第十一條ノ規定ニ依ル帳簿書類、財  
 産其ノ他ノ物件ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避  
 シ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示  
 シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第十一條ノ規定ニ依ル稅務署長又ハ其ノ代理

官ノ質問ニ對シ答辯ヲ為サズ又ハ虚偽ノ陳述  
 ヲ為シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第十八條 第五條ノ規定ニ違反シ當該書類ヲ提  
 出セズ若ハ虚偽ノ記載ヲ為シタル書類ヲ提出  
 シタルトキ又ハ第六條ノ規定ニ違反シ申告ヲ  
 為サズ若ハ虚偽ノ申告ヲ為シタルトキハ當該  
 法人ノ取締役、理事、清算人若ハ此等ニ準ズ  
 ル者又ハ當該個人ヲ一萬圓以下ノ過料ニ處ス  
 附則  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

裏面白紙